

全国視能訓練士学校協会

平成29年度 第10回教員研修会報告書

教員研修ワーキンググループ

平成30年3月

平成 30 年 3 月 吉日

はじめに

全国視能訓練士学校協会 教員研修会の目的は、視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、専門課程教育指導法の共有、専任教員個々の指導スキルの向上です。本年度も新任教員から教育経験豊富な教員まで一堂に集い盛況のうちに終了いたしました。

さて、過去の教員研修会を振り返りますと第 1 回から第 4 回のグループワーク（GW）ではコマシラバス作成をいたしました。第 9 回のアンケートではアクティブ・ラーニング（AL）をはじめとする講義の進め方や教育手法について学びたいとのご意見が挙がっておりました。また、平成 24 年の文部科学省中央教育審議会から「大学教育の質的転換」の答申を契機とし、学修者の「受動的な受講」から「能動的な学修」が推奨されております。そこで本年度の研修会ではこれまでの過程と経験を踏まえ、教育講演では「明日から使うためのアクティブラーニングを取り入れた授業設計～Instructional Design を活用する～」のタイトルで三上 剛人先生（吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科学科長）にご講演いただきました。GW では AL 型授業を含めた教授・学修法のプランニングと発表を行い新しい教授・学修法を共有することができました。三上 剛人先生のご講演は AL の目的と手法を大変分かりやすくお話いただいたばかりでなく、2 日間の全日程においてご教授下さり大変有意義な研修会となりました。

賛助会員協賛企画では 6 社よりご協力を賜り、最新の商品展示が行われ、教育および臨床現場にて有用な情報を得ることが出来ました。

ご参加いただきました先生におかれましては、本研修会を契機とし更なる教員資質の向上と教育指導内容の充実に繋がることを祈念いたします。

平成 29 年度教員研修ワーキンググループ

代表 齋藤 真之介（九州保健福祉大学）

露無 陽子（帝京大学）

加藤 権治（名古屋医専）

鈴木 ほまれ（東京医薬専門学校）

四宮 敦志（吉田学園医療歯科専門学校）

立本 志磨（大阪人間科学大学）

目 次

第 10 回教員研修会プログラム	1
教育講演	4
グループワークと発表	1 2
賛助会員協賛企画	3 0
研修風景	3 2
教員研修会アンケート	3 6
会長総評	4 4
全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧	4 6
全国視能訓練士学校協会 賛助会員一覧	4 7

全国視能訓練士学校協会

平成 29 年度 第 10 回教員研修会 プログラム

目 的

1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、教育指導方法の共有化、養成校教員個々の指導スキルの向上を目的とする。
2. 教育講演ではアクティブ・ラーニング型授業法（AL）の理論と実践を学び、グループワークでは AL 型授業を含めた教授・学修法のプランニングの立案と発表を行い、新しい教授・学修法を共有する。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会加盟校 専任教員
開催期間	平成 29 年 8 月 17 日（木）～18 日（金）
研修会場	大阪人間科学大学 C 号館 2 階 大阪府摂津市正雀 1-3-30
研修内容	研修Ⅰ. 教育講演 「明日から使うためのアクティブラーニングを取り入れた授業設計～Instructional Design を活用する」 講師：三上 剛人先生 （吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科学科長 シミュレーションセンター長 救急救命士 元救急看護認定看護師） 研修Ⅱ. グループワークと発表 「アクティブ・ラーニング型授業を含めた教授・学修法のプランニング」
プログラム	8 月 17 日（木）
	13:00～13:20 開会挨拶（概略説明） 13:20～14:50 教育講演 三上 剛人先生 14:50～15:10 集合写真撮影 15:10～17:30 グループワーク研修 「アクティブ・ラーニング型授業を含めた教授・学修法のプランニング」 GW テーマ：1. 生理光学 2. 視能障害学 3. 視能検査学（視力/屈折/眼位/眼球運動/視野） 18:30～20:30 懇親会
	8 月 18 日（金）
	9:00 開 場 9:00～10:20 グループワーク研修 10:30～12:30 グループワーク発表、質疑・応答 12:30～13:10 商品展示見学※、研修会アンケート 13:10～13:25 修了証授与、新井田会長講評 13:25～13:30 閉会挨拶 ※株式会社インサイト / クーパービジョン・ジャパン株式会社 株式会社ティエムアイ / 東海光学株式会社 / 株式会社ニデック / HOYA 株式会社

教育講演

「明日から使うための

アクティブラーニングを取り入れた授業設計

～Instructional Design を活用する～」

【講師】 三上 剛人先生

(吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科学科長 シミュレーションセンター長
救急救命士 元救急看護認定看護師)



【略歴】

平成 2 年 市立札幌病院 看護部看護課（救命救急センター配属）入職
平成 11 年 日本看護協会 救急看護認定看護師 認定
平成 19 年 吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科専任教員 就任
平成 24 年 一般社団法人 医療教授システム学会 理事
平成 27 年 一般社団法人 救急ケア開発研究所 代表理事
平成 27 年 一般社団法人 日本救急看護学会 理事

【著書】

- ・外傷初期看護ガイドライン. 一般社団法人日本救急看護学会監修. へるす出版. 2010.
- ・低体温症 救急看護のエキスパートが教える 主要症状別ファーストエイド実践マニュアル. 臨床看護 37(4), 576-578. へるす出版. 2011.
- ・胸骨圧迫のワザ. エキスパートナース 27(4), 26-28, 照林社. 2011.
- ・もしもの時に必ず役立つ! 緊急・応急処置 Q&A. 日本看護協会出版会. 2013.
- ・発生! ナースならできておくべき すぐ, やる技術. 学研メディカル秀潤社. 2014.
- ・ショック. エマージェンシー・ケア 日本救急看護学会準機関誌 27(5), 516-519, メディカ出版. 2014.

平成29年度
全国視能訓練士学校協会 第10回教育研修会

明日から使うための
アクティブラーニングを取り入れた授業設計
～Instructional Designを活用する～



吉田学園医療歯科専門学校
救急救命学科
シミュレーションセンター



三上 剛人



4段階 評価モデル Kirkpatrick model 1959

レベル1: Reaction (反応)

受講直後のアンケート調査などによる学習者の研修に対する満足度の評価

レベル2: Learning (学習)

筆記試験やレポート等による学習者の学習到達度の評価

レベル3: Behavior (行動)

学習者自身へのインタビューや他者評価による行動変容の評価

レベル4: Results (業績)

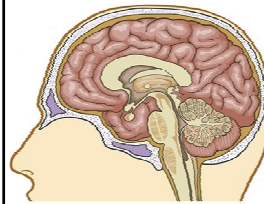
研修受講による学習者や職場の業績向上度合いの評価

アクティブラーニングとは？

一方的な知識伝達型講義を聴くという
学習を乗り越える意味でのあらゆる
能動的な学習のこと。

小林昭文 (2015) アクティブラーニング入門. 産業能率出版部

能動的な学習

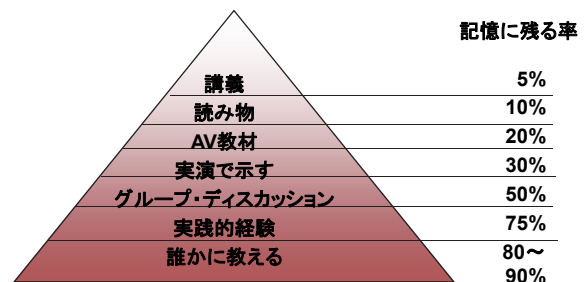


書く・話す・発表するなどの活動への
関与とそこで生じる
認知プロセスの外化
を伴う

AL型授業とは

学習者にアクティブラーニングが
起きることを含むすべての授業形式

ラーニング・ピラミッド



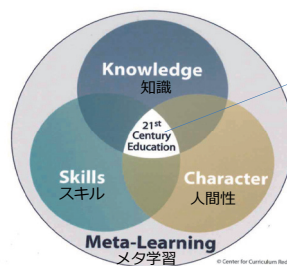
National Training Laboratories, Bethel, Maine, USA

最も教えやすく
最もテストしやすいスキルは・・・

最もデジタル化、自動化、外部委託
に移行しやすいスキルである

OECD 経済協力開発機構

Education2030事業



21世紀の学習者

CCR (the Center for Curriculum Redesign)の枠組み



引用: C.Fadel, M.Bialik, B.Trilling(2017). 21世紀の学習者と教育の4つの次元. 北大路書房

ID : Instructional Design

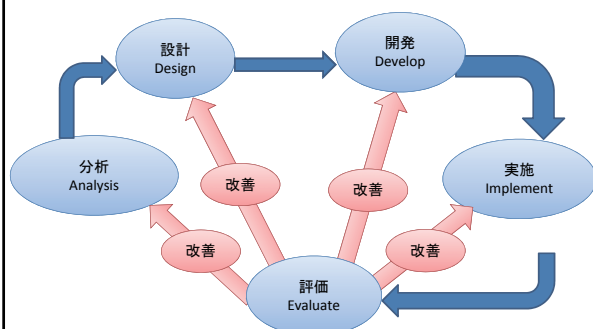
教育を効果的、効率的、魅力的に
設計・実施する方法論

- ・効果的：目標を達成できる
- ・効率的：目標達成までの負荷が少ない
- ・魅力的：もっと（また）学びたくなるように

ID の基本要件

1. 教えることのプロセスではなく、学習のプロセスを支援することに焦点化
2. 学習は様々な変数が関与する複雑なプロセス
3. 様々なレベルで応用可能
4. 学習者からのフィードバックを加え改善し、効果的になる
5. 成果と教え方と評価を整合させること
6. 異なるタイプの成果に異なるタイプのインストラクションが求められる

ADDIEモデル



分析 (Analyze)

求めるパフォーマンス
望む能力、ありたい姿



このギャップ（差）が生まれると、望む能力を習得した状態“ありたい姿”に到達できる。このギャップに成長の機会・動機づけ・教育・学習の機会がある！

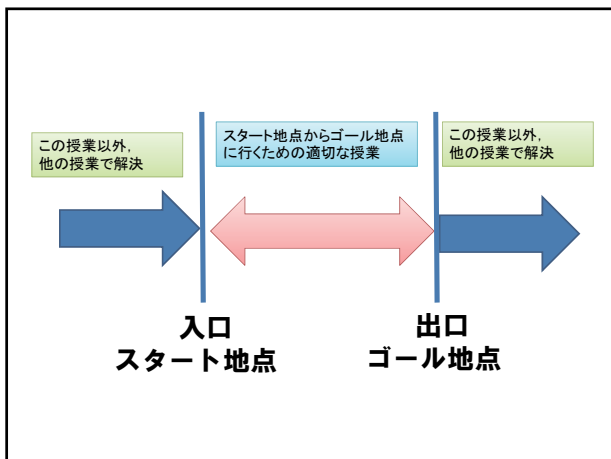
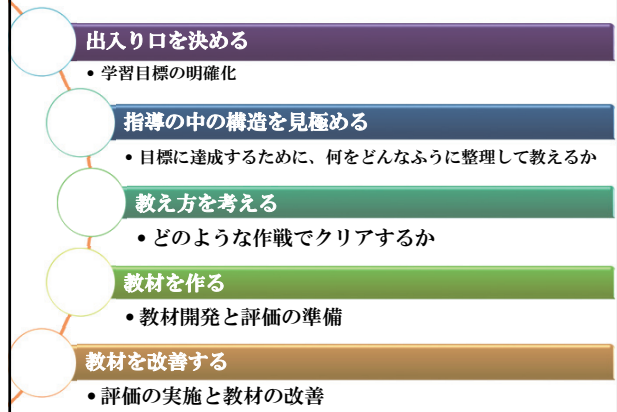
実際のパフォーマンス
現状、今の能力

ワークシート 1

分析を怠ると・・・

学生がみんな寝ていた。
 時間で終わらなかった。
 教室が狭くて、グループワークができなかった。
 研修室が広すぎて声が聞こえなかった。
 話し合いが深まらず、学習が深まらなかった。
 授業のファシリテーションができず、一人で奔走。
 話しておしてしまった
 授業内容が臨床実践に活かされていない
 など、など、など

システムの教材設計・開発の手順



「入口」と「出口」

「入口」

効果的・効率的に学習を行うには、受講前の学習者レベルのバラツキを小さくしておくことが重要。
 少なくとも、知識のバラツキがないようにしておくこと。
 ⇒これを「入口をそろえる」という。
前提条件:これだけは既に学んでいて欲しい、基礎知識は持っていて欲しいという内容で、コース中に教えないものは、事前学習、前提テストしておく。

- 他の受講者の学習を妨げないように

前提条件の設定

授業を行ううえでどうしても基礎的内容で、授業の中では教えないのであらかじめ身につけておいてほしいこと。

前提条件

授業、研修を受けるための「資格」

- 大人の研修会だったら
 - 前提テストでできなすぎる人を除外する
 (合格点に達しなかったら、今回は研修受講見送り)
- 事前テストで研修を受ける前からできている人を除外する
 (事後テストと同じ内容で、既に合格点に達していたら研修免除)

「入口」と「出口」

「出口」

コースの「出口」をはっきり示す。
 コース開始前にコースの修了条件(学習の到達目標)を明確に伝える。
 学習が終わったら何が出来るようになっているか?

学習へ動機づけると同時に、やる気・チャレンジ精神を誘導する。

学習目標（ゴール）

目標行動

学習の結果として、どのような行動がとれば良いかを具体的にしめす。

評価条件

どういった条件下の行動であれば合格かの基準。

合格基準

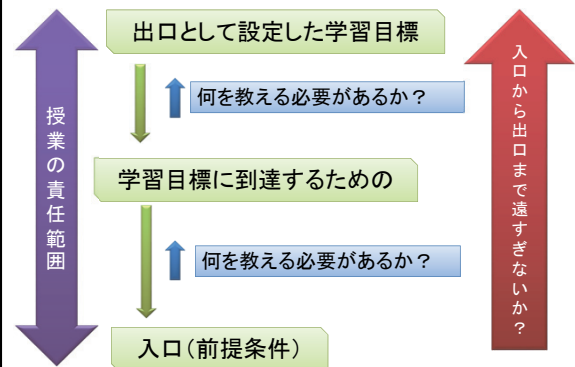
どの程度で合格とみなすか。

カラー眼底検査を理解する

蛍光眼底造影がわかる

学習課題	言語情報	知的技能	運動技能	態度
目標を表す言葉	述べる 言う 説明する 挙げる	応用する 適用する 分類する 区分する 解く	行う 実演する	選ぶ 自発的に～する 拒否する 他を選ぶ
評価の視点	再認か再生か 再認: ● × 多肢選択 式 線で結ぶ 再生: 自由解答 空欄記入	未知の例に適用させる 再認: 場合分け	実演 チェックリスト活用 正確さ、速さ、スムーズさ	行動観察、行動意図表明 観察: チェックリスト活用、場の設定 意図: 行動シミュレーション

入口に立った学習者にとって、何をクリアすれば
出口に辿りつけるか明らかにする



教え方を考える

- どのような作戦でクリアするか

講義・ディスカッション・ロールプレイ・
事例検討・e-learning・シミュレーション・
スキルトレーニング・集団学習・個別学習
etc

注: Designerなので、限られた状況でも最良のdesignを作り出す

ARCSモデル

Attention : 注意

おもしろそうだな

Relevance : 関連性

やりがいがありそうだな

Confidence : 自信

やればできそうだな

Satisfaction : 満足感

やってよかったな

J.M.Keller,1987

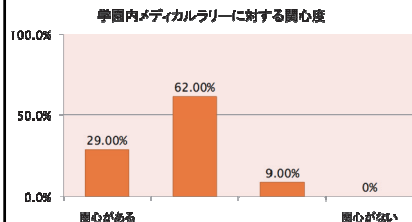
学内メディカルラリー

メディカルラリーとは、学生が臨床現場に近いシナリオを作成し、救急救命スキルの周到・応用力を養いながらチームで活動する技能コンテスト



【ラリー直前のアンケート結果】

回収率75%



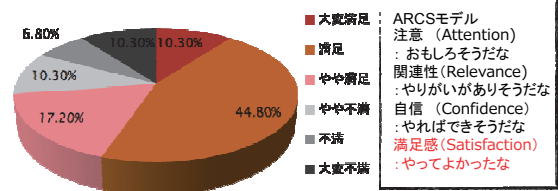
ARCSモデル
 注意 (Attention)
 : おもしろそうだな
 関連性 (Relevance)
 : やりがいがありそうだな
 自信 (Confidence)
 : やればできそうだな
 満足感 (Satisfaction)
 : やってよかったな

【ラリー後のアンケート結果】

回収率100%

実習の出席率97%

学内ラリーに対する個人の満足度



ARCSモデル
 注意 (Attention)
 : おもしろそうだな
 関連性 (Relevance)
 : やりがいがありそうだな
 自信 (Confidence)
 : やればできそうだな
 満足感 (Satisfaction)
 : やってよかったな

ARCSモデルに則った授業展開

注意 (Attention)	おもしろそう	オリエンテーション (イメージ映像の視聴)
関連性 (Relevance)	やりがいありそう	オリエンテーション (目的・コンテスト形式)
自信 (Confidence)	やればできそう	シナリオ作成 活動練習 期間における教員の介入
満足感 (Satisfaction)	やってよかった	学内ラリー後の満足度アンケート 担当教員の客観的評価

メタ認知

自分の状態や、目標、行為や方略、結果について内省すること

自己効力感 (self-efficacy)の高い子供ほど
 メタ認知を働かせ、その結果高い水準の
 パフォーマンスを示すことが多い

※自己効力感：目標を達成する力に自身があること

固定的思考態度

知能は静的なもの



頭が良いとみられたい気持ちを導く

挑戦	避ける
障害	あきらめる
努力	無駄な事、よくない事
批判	フィードバックを無視する
他人の成功	脅威と感じる

すぐに伸び悩み本来の可能性を引き出せない
 もう決められていると思う

成功的思考態度

知能は伸ばすことができる



学びたいという気持ちを導く

挑戦	受け入れる
障害	挫折してもくじけない
努力	習熟への道のり
批判	批判から学ぶ
他人の成功	教訓や刺激を受ける

今まで以上に優れた成果を上げる
 自由意志の感覚をより強く感じるようになる

Carol Dweck

なにをすれば自己効力感が高められ、
 成功的思考態度を身につけられるか？

固定的思考態度

知能は静的なもの

or

成功的思考態度

知能は伸ばすことができる

テストの結果

2種類の方法で褒めてみた

①こんなにいい点がとれたの！頭がいわね

②こんなにいい点がとれたの！よく頑張ったわ

能力を褒められた子ども→難しい方の問題を避けた

反対に努力を褒められた子ども→学びの得られる難しい方の問題を選んだ

グループワークと発表

「アクティブ・ラーニング型授業を含めた
教授・学修法のプランニング」

グループワークテーマ

- ① 生理光学 ・ ・ ・ 1 班、2 班
- ② 視能障害学 ・ ・ ・ 3 班、4 班
- ③ 視能検査学 ・ ・ ・ 5 班、6 班、7 班、
(視力/屈折/眼位/眼球運動/視野)

平成 29 年度 第 10 回教員研修会 グループワーク班員名簿

1 班 生理光学	
氏 名	所 属
二本柳 淳子	東北文化学園専門学校
古川 広明	日本医歯薬専門学校
岸上 幸代	大阪医療福祉専門学校
梶田 浩三	大阪人間科学大学
四宮 敦志 (WG)	吉田学園医療歯科専門学校



2 班 生理光学	
氏 名	所 属
田所 雅弘	仙台医健専門学校
四之宮 佑馬	国際医療福祉大学
小川 憲一	名古屋医専
渡部 暁子	神戸総合医療専門学校



3 班 視能障害学	
氏 名	所 属
梅津 綾乃	首都医校
吉田 絵美	日本医歯薬専門学校
永谷 華代	京都医健専門学校
平木 たい子	大阪医療福祉専門学校
立本 志磨 (WG)	大阪人間科学大学



4 班 視能障害学	
氏 名	所 属
庄子 南美	仙台医健専門学校
小鷲 宏昭	帝京大学
丸山 亜実	大阪人間科学大学
谷口 誠典	神戸総合医療専門学校
加藤 権治 (WG)	名古屋医専



5 班 視能検査学	
氏 名	所 属
松本 美香	大阪医療福祉専門学校
畑中 深里	神戸総合医療専門学校
松藤 佳名子	福岡国際医療福祉学院
齋藤 真之介 (WG)	九州保健福祉大学



6 班 視能検査学	
氏 名	所 属
山田 正幸	吉田学園医療歯科専門学校
井出 啓一	洛和会京都厚生学校
金野 賀代	京都医健専門学校
山本 雅美	神戸総合医療専門学校
露無 陽子 (WG)	帝京大学



7 班 視能検査学	
氏 名	所 属
佐藤 かおり	東北文化学園専門学校
山田 大樹	新潟医療技術専門学校
八木 敏次	首都医校
横田 敏子	大阪医療福祉専門学校
鈴木 ほまれ (WG)	東京医薬専門学校



平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「生理光学」

1班

- 二本柳 淳子（東北文化学園専門学校）
◎ 榎田 浩三（大阪人間科学大学）
古川 広明（日本医歯薬専門学校）
岸上 幸代（大阪医療福祉専門学校）
四宮 敦志（吉田学園医療歯科専門学校）

AIを実施する授業テーマとテーマ選定の理由

授業テーマ

遠視と近視の違いについて、図示し明確に説明することができる。
なぜ、近視の人は近づくと見えるか？

テーマ選定の理由

生理光学の基礎であり、基本中の基本。
学生は最初に学ぶところである。
言葉としては、覚えることができる、また形として覚えることはたと
しても、頭の中でイメージし、動的なものとしてイメージ理解することは
実は難しい。

学生の資質としては

- ◎イメージすることは不得意
- ◎理解しないと覚えられない
- ◎覚えるけど説明できない
- ◎生理光学は難しい分野であると最初から考えてしまう

出口

遠視と近視の違いについて、図示し明確に説明することが
できる。なぜ、近視の人は近づくと見えるか？

入口

正視、遠視、近視については言葉として覚えている。

AL型の授業の実施手順

1年次前期90分1コマ 少し延長 教員1名
可能あれば TA1名

- ◎ 前回の授業内容の再確認
- ◎ 今回の授業内容の説明(15分)
- ◎ グループディスカッション(45分)
- ◎ 発表(30分)

ALの実施手順

- 1) 正視・遠視・近視について言葉として理解できているか？
グループ内で確認してみましょう。
- 2) 近視の人は近づくと見えるのはどうしてか？
説明する方法をグループ内で検討してみましょう。
- 3) 遠視・近視の見え方を比較して、実体験してみましょう。

教員の行動

ディスカッション時のスマホ使用は禁止
討論を促すが、言い過ぎには注意
アイデアとなる図を提示する
既存の考えをあまり押しつけない

準備物

模造紙・マーカー・レンズセット・検眼枠

グループディスカッションの開始

発表

ALで期待される効果

言葉として覚えたことについて、イメージ化しやすくなる。

学習の疑問点や理解度を共有できる。

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「生理光学」

2班

渡部 暁子 (神戸総合医療専門学校)

小川 憲一 (名古屋医専)

四之宮 佑馬 (国際医療福祉大学)

田所 雅弘 (仙台医健専門学校)

GWのテーマ(小項目)「調節力」

入口

D=1/fを理解している
調節に関する生理学を理解している

出口

調節に関する用語を説明できる
調節力を計算して求められる

テーマを「調節力」に決めた理由

学修者の目線で・・・
「調節力」は手にとって理解することが
できない項目である。



講義者がより工夫を要すると考えられる。

分析

求めるパフォーマンス
調節力を計算で求められる

課題 用語を知らない
調節の計算の原理を知らない
入口のばらつきが大きい
苦手意識を持つ者が多い

現実のパフォーマンス
D=1/fはなんとなくわかっている
四則演算はできる

分析

求めるパフォーマンス
+2.5Dの遠視で+3Dのコンタクトレン
ズを装用したとき、近点は眼前
50cmであった。調節力を求めよ。



現実のパフォーマンス
+2.5Dの遠視なのになんで+3Dの
レンズを入れるの？
50cmは2D(プラス？マイナス？)

「調節力」に要する時間数

(1) 用語を正確に理解するために1コマ
「遠点」「近点」「明視域」「共役点」など

(2) 調節に関する計算に2コマ

$$A=(1/n)-(1/f)$$

(3) 調節検査の手技は検査学に任せる

ALの実施手順(1コマ目)

(1) 用語を正確に理解するために

遠点の定義

「無調節状態で網膜中心窩と共役な外界の点」

この定義を与えて、易しい言葉で説明させる
全員に考えてほしいので、2人1組
→ ワークシートで理解度を確認する

➡ 他の単語(眼前・眼後有限距離など)も出てくる

ALの実施手順(2コマ目)

(2) 調節に関する計算

2回目の授業の入口のばらつきを小さくするために、
授業の最初に「用語に関する小テストを実施」を予告しておく

計算は苦手意識の巣窟！

成功体験を積ませるため、
簡単な問題→普通の問題→応用問題
と進めていく必要がある

ALの実施手順(2コマ目)

(2) 調節に関する計算

最初から、 $A=(1/n)-(1/f)$ を与える

遠点が眼前1m、近点が眼前20cm、
調節力を求めよ。

まずは計算式を使ってみる。絶対できる。

ALの実施手順(2コマ目)

(2) 調節に関する計算

$$A=(1/n)-(1/f)$$

次に、式自体の意味を図示・説明させる



ここからグループワーク

ALの実施手順(2コマ目)

(2) 調節に関する計算・・・ステップ2

遠点が眼後1m、近点が眼前50cm、
調節力を求めよ。

まずは計算させる
式自体の意味を図示・説明させる



グループワーク、発表もさせる

ALの実施手順(3コマ目)

(2) 調節に関する計算・・・ステップ3

-2Dの近視の人の裸眼での近点が
眼前20cmであった。
調節力を求めよ。

前回の復習もかねての課題

ALの実施手順(3コマ目)

(2) 調節に関する計算・・・ステップ3

+2Dの遠視の人の裸眼での近点が
眼前20cmであった。
調節力を求めよ。

この時点で、計算式ではなく図で考える
ようになっていることを期待する。

ALの実施手順(3コマ目)

(2) 調節に関する計算・・・ステップ4

+2.5Dの遠視で+3Dのコンタクトレン
ズを装用したとき、近点は眼前
50cmであった。調節力を求めよ。

学生だけで考えさせる。

図示して答えが出せることを期待する。

図・解説ができるタイムトライアルを行い、教員の
チェックを受ける→できたらあとは自由時間

ALで期待される効果

計算の成果をアピールする機会があるので、
苦手意識を改善できる。

式だけでなく、図で考えることによって、
応用力をつけることができる。
→国家試験、臨床で役立つ、つながる。

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「視能障害学」

3班

平木 たい子 (大阪医療福祉専門学校)
吉田 絵美 (日本医歯薬専門学校)
永谷 華代 (京都医健専門学校)
立本 志磨 (大阪人間科学大学)
梅津 綾乃 (首都医校)

求める学生のパフォーマンス (出口)

- ・ 患者様の主訴から予想される疾患を列挙することができる
- ・ 疾患を鑑別することができる

授業前の学生のパフォーマンス (入口)

- ・ 検査と疾患の基礎知識がある
- ・ 正常所見

課題

- ・ 疾患と症状が結びつかない
- ・ 教科書にある代表的な写真のイメージによる丸暗記的な学習となってしまう
- ・ 臨地実習において、知っているはずの知識がでてこない

実施手順

<対象学生>
臨地実習前
眼疾患学終了後

<必要となる授業時間数>
90分×2

実施手順

授業展開	授業内容	準備物・注意事項
導入(15)	オリエンテーション (授業目的・主旨説明)	5名程度にグループ分け
展開1(20)	データ提示1 (年齢・性別・主訴) ・ 70歳 ・ 男性 ・ ぼやける グループで考えられる疾患を10以上挙げる	模造紙・付箋・マジック・PC・プロジェクター
(10)	分類分け (疾患・部位・原因)	

(15)	追加問診を考えさせる	
展開2(5)	データ提示2 (発症時期・視力・眼圧・既往歴) ・ 徐々に ・ $RV=(0.8), LV=(0.7)$ ・ IOP両眼とも18mmHg ・ IOL挿入眼	内皮検査結果の提示
まとめ(25)	疾患を5つに絞り込む 残った疾患に関して調べ、鑑別に必要となる検査とその結果を調べることを課題とする	角膜・水晶体疾患は除外し、網膜系であることに気づかせる

実施手順

授業展開	授業内容	準備物 注意事項
導入(5)	オリエンテーション (本日の流れの説明)	模造紙・ マジック
展開1(40)	模造紙にまとめる	
展開2(40)	発表と質疑応答 1グループにつき10分	
まとめ(5)	問診、推論することの重要性 への気づきを得る	

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「視能障害学」

4班

- 丸山 亜実 (大阪人間科学大学)
- 加藤 権治 (名古屋医専)
- 小鷲 宏昭 (帝京大学)
- 谷口 誠典 (神戸総合医療専門学校)
- 庄子 南美 (仙台医健専門学校)

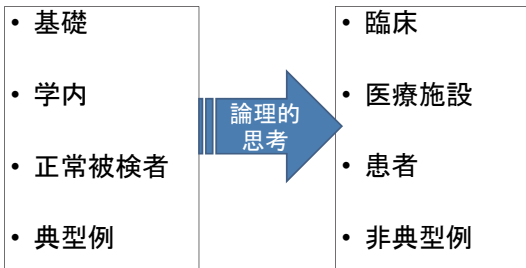
視能障害学を習得する上での問題点

基礎知識(=教科書的な知識)が
臨床的な思考(=実際)に結びつきにくい

臨床的思考

…「経験」が要素として大きいため
学生には発動しづらいが、
臨床で対応可能なレベルに発展させたい

目的…ギャップを埋める



入口…必要条件

視能障害学の知識

疾患名と
症状(自覚/他覚)の
関連性の理解

視能検査学の
知識とスキル

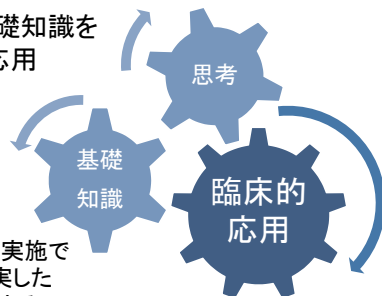
検査の目的・対象・
正常値の理解

検査方法の習得

テーマ

視能障害学の基礎知識を
基にした臨床的応用

臨地実習前の実施で
より高度で充実した
実習が期待できる



実施手順

【時期】 臨地実習前

【役割分担】視能訓練士役/患者役
(複数の学生でグループとして構成)
教員はバイザー役

【症例の設定】

- ・各グループで異なる症例を設定
→複数の疾患についての学びとなる
- ・統一した症例を設定
→評価の基準を一律にできる

成果の呈示方法

- プレゼンテーション(グループ)
 - …複数の学生の意見を集約するため
演習としての実施はやや困難
- レポート記述(個人)
 - …理論的展開の記述
→実習記録の練習としての効果も期待

手順

【患者役】

ある疾患として設定
(比較的标准
なもの)を設定

→主訴
→検査上の応答
→鑑別疾患との差異

教員の介入
必要

妥当性の検討

【視能訓練士役】

→問診
→検査の選択
→検査実施上の留意点
→検査結果読取り
→疾患の絞り込み
→治療方針の想定

フローチャートの思考

出口…期待される効果

【患者役】

- 横断的思考の獲得
⇒症状から多彩な
疾患を連想できる

【視能訓練士役】

- 情報収集
⇒鑑別しながら
適正な検査を選択
できる
- 不適切な選択をした
場合
⇒内省する

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「視能検査学」

5班

松藤 佳名子 (福岡国際医療福祉大学)
松本 美香 (大阪医療福祉専門学校)
齋藤 真之介 (九州保健福祉大学)
畑中 深里 (神戸総合医療専門学校)

1. 授業テーマと選定理由

①授業テーマ・・・眼位検査

②テーマ選定理由

- ・ 定性の重要性を伝えるのが難しい。
- ・ 初期段階から、定性検査の重要性を分かった上で眼位検査をしてほしい。

2. 出入り口の決定

①出口（学習目標）

- ・ **目標行動** 正確な定性検査ができる。
- ・ **評価条件**
- ・ **合格基準**

②入り口（前提条件）

- ・ 眼位についての基礎知識は習得済み
- ・ 眼位検査のながれを知っている（小テスト）
- ・ 検査の注意項目を知っている（小テスト）

3. 実施手順

①必要となる時間数

- ・ 5コマ／15コマ中

②学修者および教員の行動や準備物 準備

- ・ チェックリストの作成
- ・ グループメンバー

3. 実施手順

1コマ目

- ・ 基本的な検査手技を説明し、学生同士で実習。
- ・ ビデオ撮影し、検査手技についてグループ内で振り返りを行う。（AL）
- ・ よい点・問題点をあげる。（AL）

2コマ目

- ・ 1コマ目の振り返りを発表する。
- ・ よい点・問題点とその理由について述べる。
- ・ チェックリスト配布後、再度映像を確認する。
- ・ チェックリストに沿って教員が実演しながら説明しチェックリストの理解を深める。

3. 実施手順

内容

3コマ目

- ・ チェックリストに沿った実技練習
- ・ 斜位・斜視シミュレーションでの定性
- ・ - このとき、色々なタイプの眼位ずれを作成する。
- ・ 4コマ目

- ・ 斜位・斜視シミュレーションでの定性
- ・ ビデオ撮影し、グループ内で振り返りを行う。（AL）

5コマ目

- ・ 他班が作成した眼位を判定する。（AL）
- ・ 班対抗戦 判定からカルテ記載まで正解数多い班が勝ち（AL）

4. 期待される効果（行動目標）

- 教員の求める検査手技を十分に理解し、正確な検査を実施できる

その他メリット

- 教員の着眼点を得る
- 間違った情報ではなく教員が伝えたい正しい知識を早期に習得するため、正しい実習練習を行える。
- 一つ一つの手技を丁寧に実施できる
- 学生自身が出来ていないポイントを知ることが出来る
- 修正ポイントが分かる

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「視能検査学」

6班

山本 雅美 (神戸総合医療専門学校)
山田 正幸 (吉田学園医療歯科専門学校)
金野 賀代 (京都医健専門学校)
露無 陽子 (帝京大学)
井出 啓一 (洛和会京都厚生学校)

分析 アクティブ・ラーニング型授業導入にあたり
現在の学生について危惧すること

- * 現在の学生たちは、すぐに正解を求め、
そのみを覚えたら良いという学習方法の傾向にある
- * 「なぜ？」という疑問や、そこから発展する探究心が
低い傾向にある
- * 学習の過程においても失敗することを避け正解のみが
目標と考えている傾向にある

現在の小中高の教育課程において
まだまだアクティブ・ラーニング型授業を
導入している学校は少なく、
考える力が養われていない学生に対し、
明日からすぐに各学校で
導入が果たして可能なのか

視能検査学(視野)

視能検査学(動的視野) + 考える力を養う

設定：臨床実習前の手技と知識の確認

入口

- ・視野検査について手技・知識の修得済みであること
- ・異常視野疾患を理解していること

出口

- ・各症例に対し既に修得した知識や手技を
選択することができる
- ・個々の患者の理解度や疾患の状態に合わせた
検査説明ができる
- ・個々の疾患の状態に配慮することができる

ARCSモデル

① Attention (注意)	教員が実際に検査を実演する (臨床の場での見学)
② Relevance (関連性)	実際の症例を提示し、これまでの知識や手技を どのように活用するのかグループワークを行う

①②
2年生 秋ごろまでに繰り返し行い、手技・
知識の習得を目指す

③ Confidence (自信)	実習ガイドラインをもとに達成度を自己評価する 主観的評価と客観的評価を比較、新たな問題点を 発見し、習得に向けてプランニングする
④ Satisfaction (満足感)	達成度を客観的評価 この授業を受けて学生自身の満足度を評価 再度、実技テスト等により③のプランニング

③④
2年生 終了時(臨地実習前)までに
実施し、完成をめざす。

視能検査学（視野）ワークシート 1

ねらい

- ・これまでの知識を活用して観察をすることができる
- ・グループワークにより着目点を広げる

問 1

検査の実演を観察し、これまでの知識をもとに何を学びとることができるのか

ねらい

- ・具体的な症例に対し、これまでの知識と手技の活用に結びつけることができる

問 2 実際の症例
知識面

手技

ねらい

- ・実習ガイドラインをもとに達成度を自己評価する
- ・主観的評価と客観的評価を比較し、新たな問題点を発見し習得に向けてプランニングする

問 3 現在の知識や手技で臨床の場で何ができるのか
さらにどうなりたいのか

問 4

再度、実技テスト等により③のプランニング

達成度を客観的評価

この授業を受けて学生自身の満足度を評価

まとめ

- ① …はできるか(チェック項目に沿って確認)
- ② この授業を通して気づきと新たな目標

目的は、自分の課題を発見でき、解決していく力を身に付ける

まとめ

- ・最低限の知識があつてこそ思考が可能
(講義や教材は必要)
- ・アクティブ・ラーニング擬きの授業を行う教員もいるが、
教員の自己満足だけで終わるのではなく
学生自身が**学びたいと思う**ような導きが必要。
(ブレが生じてはならない)
- ・将来的に導入が当たり前になった時
→ 学生が自ら問題発見することができる

期待される効果

授業が印象的に残る
もっと知りたくなる
研究するための基礎力が身につく

平成29年度 全国視能訓練士学校協会
第10回 教員研修会

グループワークテーマ「視能検査学」

7班

鈴木 ほまれ	(東京医薬専門学校)
横田 敏子	(大阪医療福祉専門学校)
佐藤 かおり	(東北文化学園専門学校)
八木 敏次	(首都医校)
山田 大樹	(新潟医療技術専門学校)

- 小項目: 眼位検査
- 設定: 眼位検査における学内実習初回2コマ
- テーマ選定の理由:
眼位を見るうえでの検査の入口であるが、
簡単な様で難しい。
視能訓練士としての基礎的な部分である。
- 入口
座学にて眼位の項目が終わっている
- 出口
Hirschberg法にて、定性・定量ができる

<課題>

- ・手技が身に付いてない
- ・正常、異常の判断が出来ない
- ・声掛けの仕方がわからない
- ・診るポイントがわからない
- ・1mmがどれくらいかわからない
- ・そもそも、角膜反射はみえていない

<事前学習>

学外の誰でもいいので3人の眼に光を当てて、
光が角膜のどこにあたっているかを
イラストで描いてくる

注意 (Attention)
面白そうだな！！

<授業中>

- ①正しい手技の講義
- ②1mmがどれくらいかペアで確認(書いてみる)
- ③実際にペアでやってみる
- ④角膜反射が見えないケースを考えてみる(GW)
- ⑤正しく光を当てた時の患者側の見え方の確認
- ⑥正しいやり方でグループ内の反射を今一度確認する
- ⑦プリズムを使い「ずれている」ことを実感させる
その時のずれの大きさもグループで確認
- ⑧結果の記載方法
- ⑨プリズムの大きさを伏せて、実際にずれの大きさと度数が合っているかを確認することで自信につながる

<授業中>

- ①正しい手技の講義
- ②1mmがどれくらいかペアで確認(書いてみる)
- ③実際にペアでやってみる

関連性 (Relevance)
やりがいがありそうだな！

<授業中>

- ④角膜反射が見えないケースを考えてみる(GW)
- ⑤正しく光を当てた時の患者側の見え方の確認
- ⑥正しいやり方でグループ内の反射を今一度確認する (④⑤を検討したうえで)

自信 (confidence)
やればできそうだな！

<授業中>

- ⑦プリズムを使い「ずれている」ことを実感させる
その時のずれの大きさもグループで確認
- ⑧結果の記載方法
- ⑨プリズムの大きさを伏せて、実際にずれの大きさと度数が合っているかを確認することで自信につながる

満足感 (Satisfaction)
やってよかったな！

贊助會員協贊企画

賛助会員協賛企画

本年度も賛助会員様にご協力いただき最新の商品展示を行っていただきました。お陰様で教育および臨床現場で有用な情報を得る貴重な機会となりました。ご協力をいただきました株式会社インサイト様、クーパービジョン・ジャパン株式会社様、株式会社ティエムアイ様、東海光学株式会社様、株式会社ニデック様、HOYA 株式会社様（五十音順）に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りたく全国視能訓練士学校協会一同よりお願い申し上げます。



株式会社インサイト



クーパービジョン・ジャパン株式会社



株式会社ティエムアイ



東海光学株式会社



株式会社ニデック



HOYA 株式会社

研修風景

グループ発表

「アクティブ・ラーニング型授業を含めた教授・学修法のプランニング」



教員研修会 懇親会



平成 29 年度 第 10 回教員研修会 修了証授与



第 10 回教員研修会講評 会長 新井田 孝裕先生



教員研修会アンケート

第10回全国視能訓練士学校協会 教員研修会アンケート

全国視能訓練士学校協会 教員研修ワーキンググループ

平成 29 年 8 月 17・18 日

第10回教員研修会へご参加頂きありがとうございました。

本研修会をよりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

教員歴 (年目) 視能訓練士歴 (年目)

1. プログラム構成について

- | | | | | | |
|-----------|---|----------|-------|-----------|---|
| ①教育講演 | (| あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |) |
| ②グループワーク | (| あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |) |
| ③機械展示 | (| あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |) |
| ④賛助会員セミナー | (| あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |) |
- 希望されるセミナーがあればご記入ください

贊助會員一覽（順不同）

株式会社ティエムアイ、HOYA 株式会社ビジョンケア部門、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、ビジョンケア・カンパニー、
クーパービジョン・ジャパン株式会社、ジャパンフォーカス株式会社、株式会社シード、株式会社ニデック、株式会社インサイト、
株式会社トプコンメディカルジャパン、東海光学株式会社

- ⑤昨日の教育講演に対するご意見・ご感想をご記入ください

- ⑥グループワークに関するご意見・ご要望等をご記入ください

- ⑦今後の教育講演やグループワークで希望されるテーマをご記入ください

2. 運営について

- ①開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)

→ご希望・ご意見 [_____]

- ②タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)

- ③教員研修会参加費の限度額(懇親会含む) (5000 円 6000 円 7000 円 その他 円)

- ④その他、運営に関するご意見・ご要望等をご記入ください

3. 研修会全体について

- ①教育活動の参考になったか (なった ならない どちらともいえない)

- ②研修会全体に対するご意見・ご要望、研修会を振り返っての感想をご記入ください。

第10回 全国視能訓練士学校協会 教員研修会 アンケート結果

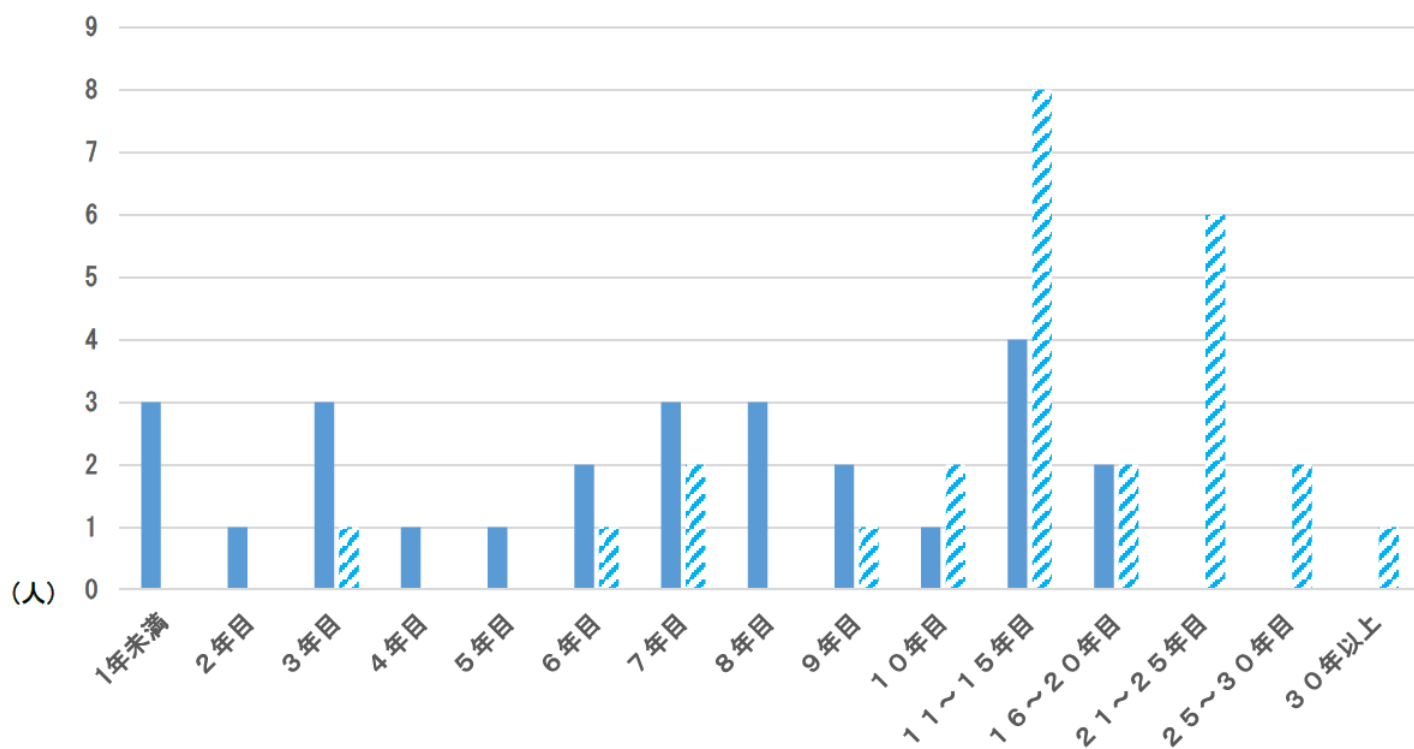
実施日：平成29年8月17日(木) 18日(金)

参加人数：33名（うちWG6名）

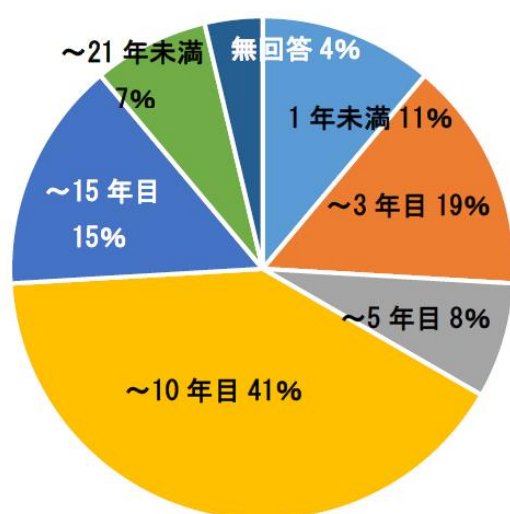
アンケート回答：27名（WGメンバーを除く100%）

■参加者教員歴 / ■視能訓練士歴

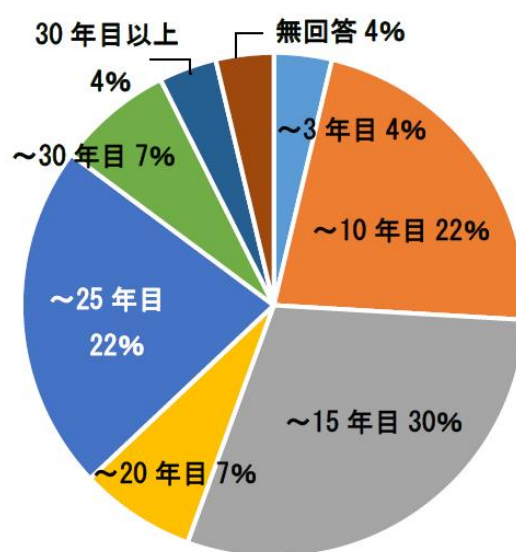
※ 1名無回答



参加者教員歴比率



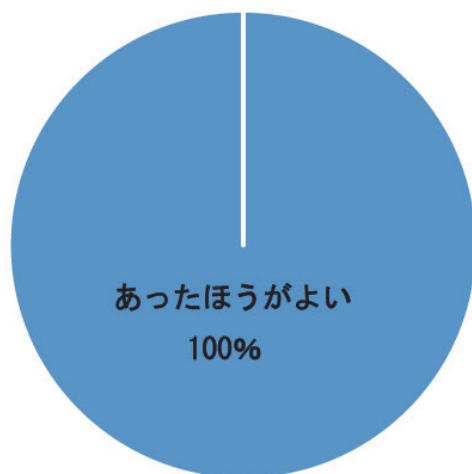
視能訓練士歴比率



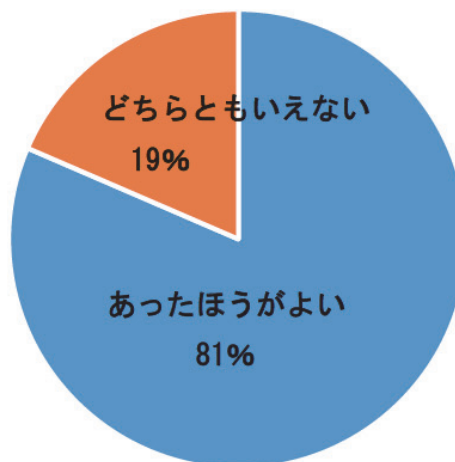
※ 3年以上5年未満 該当者なし

1. プログラム構成について

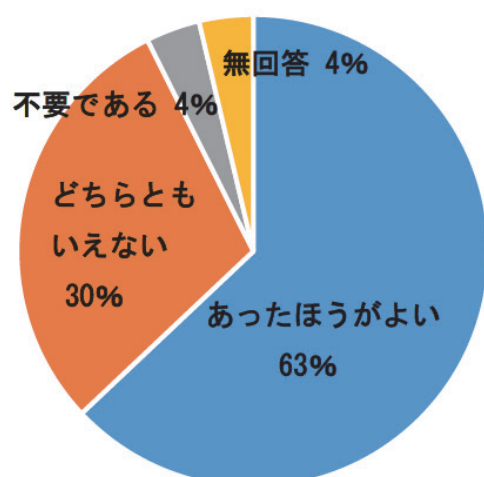
① 教育講演



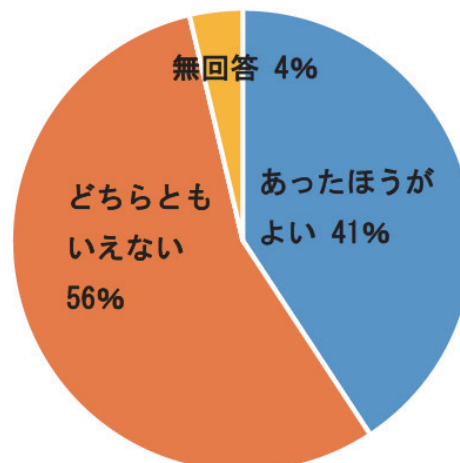
② グループワーク



③ 機 械 展 示



④ 賛助会員セミナー



・「希望されるセミナーがあればご記入ください」に対する回答はなかった。

		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑤ 教育講演	・ 漠然としていたALについて理解が深まった。講演とGWを組み合わせていることで、両者が絡み合いグループでのディスカッションが活発になったと思う。（16年目） ・ アクティブラーニングについてより深く理解することが出来ました。先生の分かりやすいお話と親しみやすいお人柄に安心感も覚え、有意義な研修となり大満足です。ありがとうございました。（16年目） ・ とても勉強になりました。貴重なご講演ありがとうございました。（13年目、5年目） ・ アクティブラーニングの手法や基礎的なことがよく分かった。今後とり入れたいと思いました。（12年目）

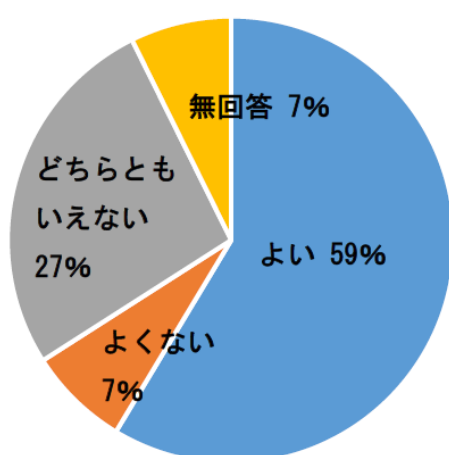
		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑤ 教育講演に関するご意見・ご感想	・大変分かりやすい講演で、明日からの授業で取り入れたいと思います。（１１年目） ・アクティブラーニングの具体的な導入方法や効果が分かった。（１０年目） ・ＡＬ型授業の導入にはとても興味がありました。この講演を参考に、できることから導入したいと思います。（９年目） ・アクティブラーニングを取り入れた授業設計を詳しく知ることができた。授業設計の重要性とその難しさを感じた。（９年目） ・アクティブラーニングを取り入れるにあたり、参考になりました。実際の実施例などをもう少し聞けるとよりよかったです。（８年目） ・三上先生の講演わかりやすかったです。自分の講義にとり入れていきたいと思います。（８年目） ・アクティブラーニングの講演としてはよかったと思いますが、視能訓練士養成校の講演としては所々合わない部分もあり、もう少し掘り下げたお話がおききたかった気がします。（８年目） ・自分自身がアクティブラーニングを受けていないので、授業の組み立て方や注意点など非常に勉強になりました。（７年目） ・ＡＬ型授業において活発なＧＷができない時の対応策を説明して欲しかった。（７年目） ・アクティブラーニングの敷居が低くなったように思います。わかりやすくできるところから始めてみようと思いました。（７年目） ・「教える」だけでなく「考えさせる」ことが必要ということ、そのための授業設計をどのように立てていくか、たくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。（６年目） ・三上先生の講義内容がとても興味深く、参考したいと思いました。（４年目） ・ＡＬとは何か、そもそもから考えなおすことができました。ありがとうございました。（４年目）。 ・アクティブラーニングの実際例がもっと聞けるとありがたかった。ARCS モデルは使っていきたい。（３年目） ・実際に行われているＡＬの手法についてご紹介いただき、非常に参考になりました。（２年目） ・アクティブラーニングについてくわしく知ることができました。（１年目） ・授業設計は課題としているところだったので今回の講演はとても有意義なものでした。（１年目） ・大変に勉強になりました。アクティブラーニングの考え方をして、授業案を考えていこうと思いました。（１年目） ・わかりやすかったが、同じ立場の人間の話と具体例がもっと欲しかった。（年数記載なし）

		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑥ グループワークに関するご意見・ご要望	・GWの人数が実質的に3人になり、少なかったと思う。（16年目） ・あっという間に時間が経ちました。もっと教育論を語る時間がほしかったです。（16年目） ・GWを通していろいろ考えさせられ、参考になることが多く出た。（12年目） ・他校との情報交換の場としても有意義であった。（10年目） ・教員それぞれの日頃のいきづまり等聞けて、またその解決策も教えて頂き参考になりました。（9年目） ・同じギャップを感じている先生方とのGWは有意義な時間でした。（9年目） ・他校の先生方のお話しも出来、有意義でした。（8年目） ・GWの時間が十分ではない。（8年目）（7年目） ・ホワイトボードを用意して下さって、円滑にディスカッションをすすめることができました。（7年目） ・他校の先生とお話が出来、それぞれの事情を知ることはとても参考になりました。いつもグループワークをしてよかったと思います。（7年目） ・それぞれの先生方の視点、ご経験を参考にさせていただく面が多く、勉強させていただけたと思います。（6年目） ・これ以上時間を取るのには難しいのはわかるが、時間が短い。GWメンバーなど名前が入っているフォーマットが用意されているのは良かった。（5年目） ・PPにももう少しフォーマットがあるとありがたい。時間内に仕上がらない。（3年目） ・具体例を示しながらの講演だったので分かりやすかったです。（3年目） ・学生の課題等 先生方が悩んでいる点は同じだという事に改めて勇気をいただきました。どうすれば楽しい授業になるか、活かしていきたいと思います。（2年目） ・発表は必要でしょうか？ 発表することに対してのウエイトが大きく、もっとディスカッションをしたいと思います。（1年目） ・他の方の考えを聞く事はとても貴重なのでGWが今後の授業を設計するのに大変役立ちました。（1年目） ・同じ教科で考えられることで、よりよい方法を見つけ出すことが出来たと思います。（1年目） ・学校の形態に配慮を…（1年制、3年制では話が…）（年数記載なし）
	⑦ 今後希望されるテーマ	・初年次教育法（スタディスキルやアカデミックスキルについて etc.）（12年目） ・今回のような教育力向上につながる講演があればぜひ参加させて顶きたいです。（11年目） ・テキストに掲載されていないような見えないスキルを可視化する方法を知りたい（GWになるかは想像つきませんが…）（9年目） ・授業設計の方法（8年目） ・斜視・弱視訓練のスタンダードについての講演をお聞きしたいです。（8年目） ・理解力の低い学生に対する教授法。（7年目）

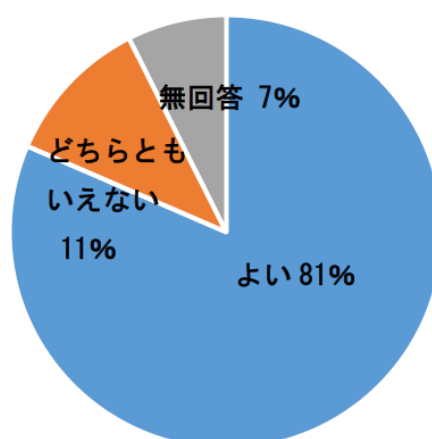
		ご意見（教員歴）
プログラム構成について	⑦ 希望されるテーマ	・教員として必要な資質について。自分が自信のないところがありますので先生方のお考えを知りたいと思います。（６年目） ・今回のアクティブラーニング講演をふまえて次回の研修会までに１度ＡＬ型授業を実践してみて、内容を持ちより改善点などもう一度深く話し合ってみたい、と思います。（４年目） ・臨地実習前指導について（実習授業について）（３年目） ・GWで実習レポートの書き方等について話し合いたい。（１年目）

２．運営について

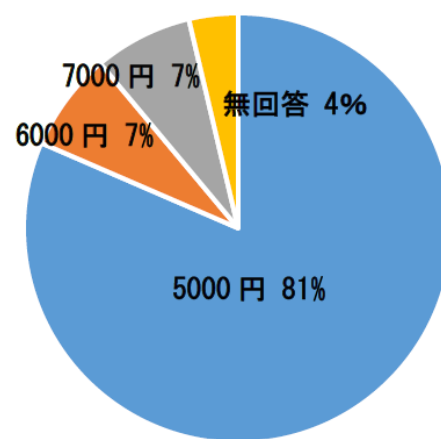
① 開催日の設定



② タイムスケジュール



③ 教員研修参加費の限度額（懇親会含む）

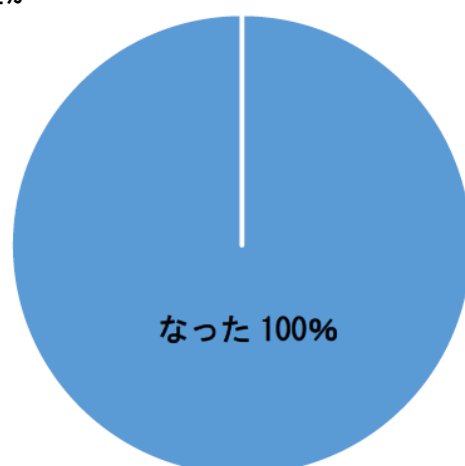


		ご意見（教員歴）
運営について	① 開催日の設定	・１週間遅い方が望ましい。（１６年目） ・盆明けすぐは、業務があり参加しにくい。（９年目） ・８月最終週あたり。（８年目） ・もう少しお盆休みから離れているとよかったです。（８年目） ・学生が臨地実習から戻る時期と重なる為できれば８月前半であれば参加しやすいです。（６年目） ・どうしても長期休みの期間内になるかと思います。（６年目） ・夏休みの時期でありがたいが旅費が高い。（３年目） ・９月上旬が良い。（３年目）
	④ その他	・お世話になりました。（１６年目） ・細かい配慮いただきありがとうございました。（１６年目） ・素晴らしい研修会の運営ありがとうございました。お疲れ様でした。（１２年目） ・運営を行って頂きありがとうございました。（８年目）

		ご意見（教員歴）
運営について	④ その他	・ グループワークの内容が少し理解しにくい部分がありました。（８年目） ・ お世話になりました。ありがとうございました。（６年目） ・ 準備してくださる先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。（６年目） ・ ２日間運営ありがとうございました。（３年目） ・ みなさんお忙しい中準備していただきありがとうございました。（２年目）

２．研修会全体について

① 教育活動の参考になったか



		ご意見（教員歴）
研修会全体について	② 全体に対するご意見・ご要望・感想	・ 参加者が全くいない学校が結構あったことに驚きました。教員研修会がもっと参加者が増え盛り上がっていくことを願っています。（１６年目） ・ 講師の先生が２日間に渡って指導して下さったので、自分の中でＡＬを深めることができました。講義からＧＷまで一貫性があり、よかったと思います。（１６年目） ・ 年に１回、学校教員が集まる貴重な機会ですので今後もさらに発展することお祈りします。例えば実習指導者や教員希望者や候補者なども参加できるなど門戸を広げたり、Jaco の生涯教育の単位として認定できる制度などはどうでしょうか？（１２年目） ・ 大変有意義な研修会でした。有り難うございました。（１１年目） ・ 普段の授業のあり方を見直し、いかに学習のプロセスを支援すべきか、を考えさせられました。今後の授業の進め方にぜひ取り入れていきたいと思います。三上先生、運営の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。（１０年目） ・ 後期の授業運営をつめていかないといけない時期になっているので、今回の研修で勉強したことを活用したいと思います。設計後、いつもは誰かにみてもらうことをしていなかったので、先輩にみて頂き、客観的に問題点を見つめる分析力を培っていききたいと思います。ＷＧの皆様ありがとうございました。（９年目） ・ 他校の先生方と話をする機会となり、自分自身を見直すきっかけとなりました。ありがとうございました。（８年目）

		ご意見（教員歴）
研修会全体について	② 全体に対するご意見・感想	・担当変わっての御苦労も多く、大変だったことと思います。いろいろありがとうございました。懇親会のスライドは感動しました。ありがとうございました。（８年目） ・今後ますます重要となってくるアクティブラーニングについて１から知ることができました。明日からの講義に取り入れていきたいと思います。運営お疲れ様でした。ありがとうございました。（７年目） ・視器の解剖や眼球運動を担当しており、基礎の学習部分でのＡＬの取り入れはなかなか難しい様に感じますが、１年目の学生が今後の長い期間の勉強に取り組みたいと思える様な工夫のひとつとして考えていきたいと思いました。ありがとうございました。（６年目） ・困りごと（現在、将来想定されるもの）についての解決にヒントを与えていただける貴重な機会と考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。（６年目） ・他の学校様との交流ができよかった。（３年目） ・先生方の抱えている悩みや対策等、ＡＬの手法に限らず様々な情報交換の場となり、参加出来て本当に嬉しく思います。今回の学び、気づきを明日から生かしていきたいと思います。（２年目） ・今度も貴重な研修会に出席できましてありがとうございました。（１年目） ・これからの教育に役立つ２日間でした。ありがとうございました。（１年目） ・アクティブラーニングの考え方や、研修会で他の先生方の考え方を学べ、自分自身の考え方やいろいろな見方ができとても参考になりました。（１年目）

会長総評

教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的に、平成20年度から始まった教員研修会ですが、今回で10回目を迎えることができました。皆様の暖かいご支援とご協力により、今年も全国の養成校から多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。お盆休み明けで学生募集を始めとするさまざまな学校行事でお忙しい中、教員の派遣に快く応じていただきました養成校の関係各位には、この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。

今回の教育講演は「明日から使うためのアクティブ ラーニングを取り入れた授業設計～Instructional Designを活用する～」というタイトルで吉田学園医療歯科専門学校 救急救命学科長、シミュレーションセンター長である三上 剛人先生にお願いいたしました。アクティブ ラーニング（以下、AL）は、教員による一方向的な知識伝達型の授業形態とは異なり、学生の能動的な学習を促す教育手法の包括的概念であり、少人数によるグループワークやグループ討議、ロールプレイングや過去の教員研修会でも取り上げたPBL（問題／課題解決型学習）などが含まれます。三上先生のご講演では、ALを遂行する上で授業や教材の設計が大変重要であり、入口である“前提条件として基礎知識のレベルをできるだけ揃えておくこと”や、出口として“学習の到達目標である行動目標や評価基準を明確に示す”ことの大切さを再認識することができました。また、学習意欲を引き出すための動機付けをAttention（注意喚起）、Relevance（関連性）、Confidence（自信）、Satisfaction（満足）の4つの要素を用いてモデル化したアメリカの教育工学者ケラーが提唱したARCS（アークス）モデルやスタンフォード大学のDweck博士が提唱した“成長する思考態度を身に着けることが知性や能力を伸ばす”ことにつながり、そのためには自己を客観的に省察できるメタ認知を強化し、自己効力感を高めることが重要であるという説明も大いに参考になりました。

講演に引き続いて、参加者全員が7つの班に分かれて生理光学、視能障害学、視能検査学のテーマ別にグループワークを行い、翌日発表していただきました。今回、各班で取り上げたテーマは遠視と近視の違いや調節力の計算、眼疾患では問診と必要な検査の選択、提示された症例から疾患を連想し絞り込む臨床推論、定性の眼位検査や動的視野検査等、日々の演習や学内実習、臨地実習直前の確認などで実際に指導されている内容であり、過去の研修会に参加されている方々も多いため意見の集約やスライド作りは手慣れた様子でした。発表では事前学習を含めた入口の設定や、実技風景をビデオ撮影しグループで省察後にチェックリストを用いた確認や実技練習の導入、達成度を客観的に評価し問題点を学生自身に気づかせ新たな目標をプランニングさせるためのワークシートの作成、計算問題のタイムトライアルやグループ対抗戦の導入など様々なアイデアが紹介され、三上先生にもご意見をいただきながら活発な討論が繰り広げられました。例年のことですが、他施設の教員の考え方やアイデアを知ることは経験年数の浅い教員にはもちろんのこと、ベテラン教員にとりまして自らの指導法や対処法を顧みる上でとても参考になるものでした。

18歳人口の減少が顕著となる2018年問題に加えて、国内の景気が回復し有効求人倍率が高い水準となっているため、医療系を目指す高校生は減少傾向にあると言われています。少子化の影響は都市部に比べ地方で特に顕著になっており、さらに医療系職種の中で視能訓練士の社会的認知度は未だ十分とは言えず、大学を含めて一部の養成校では学生確保に苦慮しているのが現状です。志願者が少なければ入試での選抜が困難となり、いろいろな問題を抱えた学生や基礎学力の備わっていない学生も入学するため、入学後のモチベーションの低下や進路変更の増加が危惧されます。さらに、

最近の学生の特徴として探究心や思考力・想像力の低下も指摘されています。このような状況の中で、目的意識を明確に持った将来を担う視能訓練士の育成が我々に課せられた使命であり、医療系の実践教育においてALは有益な教育手法の一つと考えられます。しかしながらALを実際に導入し、その完成度を高めていくためには、基礎知識やベースとなる情報を今まで以上に効率的に伝え、定着を図ることが必要不可欠です。そのためには従来型の講義に工夫を凝らし、講義と演習・学内実習・臨地実習を密接にリンクさせた体系的なカリキュラムを構築していく中で、学生と教員が余裕を持って取り組めるようAL科目を適宜配置することが肝要ではないでしょうか。また、e-learningやスマホ対応を含めたICT(情報通信技術)や反転授業の導入も有効な手段と考えられます。一方、今後のALの課題としてはファシリテーターとしての教員の立ち位置の設定や複数教員が関わる場合の協働体制、特別な配慮が必要な学生への対処に加えて、学習の到達状況や成果を評価する際の明確な評価基準(ルーブリック)の確立が大切です。

今回、時間の制約から賛助会員のセミナーは残念ながら実施できませんでしたが、賛助会員として過去最多となる6つの企業に出展していただき有益な最新情報を提供していただき参加者一同、知識を深めることができました。出展いただきました株式会社インサイト、クーパービジョン・ジャパン株式会社、株式会社ティエムアイ、東海光学株式会社、株式会社ニデック、HOYA株式会社ビジョンカンパニーの担当者各位にはこの場をお借りして深謝申し上げます。

今回の研修会は大阪人間科学大学で開催させていただきました。新大阪駅からの利便性が高く、各種設備が整っており、申し分のない環境の中で2日間の研修会を実施することができました。快く会場をご提供いただいた学校法人薫英学園の教職員の皆様に当協会を代表して心より御礼を申し上げます。また、夜の懇親会是新大阪の駅に近いカルフォルニアカフェで講師の三上先生にもご参加いただき親睦を深めることができました。記念すべき第10回ということで、懐かしい第1回の教員研修会から現在までを振り返るスライドショーの上映もサプライズされ、アットホームな雰囲気の中で話が弾みました。

最後になりますが、企画から開催準備、報告書の取りまとめに至るまで、ご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏にあらためて深謝申し上げます。

全国視能訓練士学校協会

会長 新井田 孝裕

全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

視能訓練士養成大学

	施設名	学科名	所在地
1	東北文化学園大学	医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻	宮城県仙台市
2	新潟医療福祉大学	医療技術学部 視機能科学科	新潟県新潟市
3	国際医療福祉大学	保健医療学部 視機能療法学科	栃木県大田原市
4	帝京大学	医療技術学部 視能矯正学科	東京都板橋区
5	北里大学	医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻	神奈川県相模原市
6	平成医療短期大学	リハビリテーション学科 視機能療法専攻	岐阜県岐阜市
7	愛知淑徳大学	健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻	愛知県長久手市
8	大阪人間科学大学	医療福祉学科 視能訓練専攻	大阪府摂津市
9	川崎医療福祉大学	医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻	岡山県倉敷市
10	九州保健福祉大学	保健科学部 視機能療法学科	宮崎県延岡市

視能訓練士養成専門学校

	施設名	学科名	所在地
1	北海道ハイテクノロジー専門学校	視能訓練士学科	北海道恵庭市
2	吉田学園医療歯科専門学校	視能訓練学科	北海道札幌市
3	東北文化学園専門学校	視能訓練士科	宮城県仙台市
4	仙台医健専門学校	視能訓練士科	宮城県仙台市
5	新潟医療技術専門学校	視能訓練士科	新潟県新潟市
6	専門学校日本医科学大学校	視能訓練士科	埼玉県越谷市
7	東京医薬専門学校	視能訓練士科	東京都江戸川区
8	首都医校	視能訓練士特科	東京都新宿区
9	日本医歯薬専門学校	視能訓練士学科	東京都杉並区
10	名古屋医専	視能療法学科/視能訓練士特科	名古屋市中村区
11	洛和会京都厚生学校	視能訓練士学科	京都市山科区
12	滋慶京都学園 京都医健専門学校	視能訓練科	京都市中央区
13	大阪医専	視能療法学科	大阪市北区
14	大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校	視能訓練士学科	大阪市淀川区
15	神戸総合医療専門学校	視能訓練士科	兵庫県神戸市須磨区
16	松江総合医療専門学校	視能訓練士科	島根県松江市
17	福岡国際医療福祉学院	視機能療法学科	福岡市早良区
18	平松学園 大分視能訓練士専門学校		大分県大分市
19	西日本教育医療専門学校	視能訓練士学科	熊本県東区

全国視能訓練士学校協会 賛助会員一覧

施設名	所属地
株式会社 インサイト	宮城県仙台市泉区長命ヶ丘 3-28-1
クーパービジョン・ジャパン株式会社	東京都渋谷区恵比寿 2-36-13 広尾 SK ビル
株式会社 シード	東京都文京区本郷 2-40-2
ジャパンフォーカス株式会社	東京都文京区本郷 4 丁目 37 番 18 号 IROHA-JFC ビル 5F
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	東京都千代田区西神田 3 丁目 5 番 2 号
株式会社 タイムズコーポレーション	兵庫県宝塚市高司一丁目 6 番 11 号
株式会社 テイエムアイ	埼玉県新座市新座 1 丁目 2 番 10 号
東海光学株式会社	愛知県岡崎市恵田町下田 5 番地 26
株式会社 トプコンメディカルジャパン	東京都板橋区蓮沼町 75-1
株式会社 ニデック	愛知県蒲郡市拾石町前浜 34 番地 14
日本アルコン株式会社	東京都港区虎ノ門 1 丁目 23 番 1 号 虎ノ門ヒルズ森タワー
HOYA 株式会社ビジョンカンパニー	〒164-8545 東京都中野区中野 4 丁目 10 番 2 号 中野セントラルパークサウス 6F

※五十音順

全国視能訓練士学校協会
平成29年度 第10回教員研修会報告書

平成30年3月発行

発行 全国視能訓練士学校協会

事務局 平成医療短期大学
リハビリテーション学科 視機能療法専攻
〒501-1131 岐阜県岐阜市黒野180番地

(許可なく複写転載を禁ず)